

サラリーマン川柳(大吉のおみくじ引いても失業中)

(同じ額社長税金俺年収)

(お父さん馬さえあんなに稼ぐのに)

(能力がないのに運がないという)



ワークショップ連続講座

2名の専門家が雇用確保の視点で提起

商工会議所と共催で2講座を開催して学習

雇用の不安定化が進む中で、労働の分かれ合いワークショップについて2講師から提起を受ける連続講座が開催された。この講座は連合中越・商工会議所の共催で実施されたもので、2日間で120名が受講した。第1回講座は5月1日(月)午後6時30分から独立行政法人労働政策研究・研修機構の小倉一哉主任研究員を講師に講座が行われた。第2回講座は5月21日(木)に、学習院大学経済学部の脇坂明教授から講義がなされた。両氏とも、緊急避難型ワークショップと多様な就業型ワークショップの2タイプの特徴について提起された。特に現在、雇用環境が極めて厳しい状況にあることから緊急避難型が、雇用調整助成金の活用を例にして説明された。ドイツ、オランダ、デンマークにおける事例で多様な労働型の制度について解説された。労使で同床異夢と言われるワークショップであるが、元々、日本においては総労働時間の短縮が進んでおらず、抜本的な時短対策とセットで検討されるべきと受止めた。



第643号 2009.6.1 連合中越地域協議会 長岡市東蔵王2-2-68 TEL 0258-24-0515 FAX 0258-24-8930 発行人 矢島 良彦 定 価 1部10円



NPO法人地域循環ネットワーク

2009年度通常総会を開催

スタッフの新体制も含め、新年度の活動大綱・予算を決定

長岡市内を中心として越地域で環境保全活動を展開しているNPO法人地域循環ネットワークの2009年度通常総会が、5月22日(金)午後6時30分から、ながおか市民センター会議室にて開催された。10回目を迎えた通常総会には金子理事長が主催者挨拶をした後、長岡市・エコファーム新潟・サークルみずばしらが来賓挨拶。報告事項では昨年末の農林水産大臣賞受賞も含め、運動全般の一般活動報告、決算報告、監査報告が逐次担当から行われた。質疑の後、全体の拍手で報告事項は承認された。続く審議事項では、新年度の活動大綱(案)事業計画(案)、予算(案)について担当から提案された。質疑では割りばしリサイクル活動に関する件に置ける予算措置について質問がなされた。また、監事と会計監査委員が各1名となつているも

の複数にする事の検討についても意見が出され、執行部答弁の後満場の拍手で全事項について承認された。学校給食調理残さ再利用事業は、旧小国と越路の一部が未回収地域となっており、本年度内に試行を開始して、2010年度には合併全市の回収体制が実現できるよう方針化され、通常総会は終了した。



連合北陸ブロック 専従役員会議を妙高で開催 春闘・会費・新地協対策などについて意見交換 連合北陸ブロックは5月24日(日)と25日(月)に渡り、妙高にて専従役員会議を開催した。会議は開催地である新潟の江花会長が司会をして進められた。自己紹介の後、各地方連

総選挙状況報告の後新地協移行にむけた対応や進捗状況、並行して連合会費の値上げ動向についての報告がなされた。新地協については富山・石川・福井と新潟から現況説明があり、いずれも、現存する地協統合の苦労話が多かった。 連合会費は2011年1月、翌年1月の2段階で各5円ずつ引上げする事で大会討議される方向が示された。

合会から共通テーマとした春闘、総選挙状況新地協対策などについて進捗状況が報告された。春闘では、要求の組立時点と、その後の世界同時不況勃発時点での整合性の可否についても意見交換が図られた。 総選挙状況報告の後新地協移行にむけた対応や進捗状況、並行して連合会費の値上げ動向についての報告がなされた。新地協については富山・石川・福井と新潟から現況説明があり、いずれも、現存する地協統合の苦労話が多かった。

●小生は小心者。「連合副会長とはいい知らず大変失礼。」と一応お詫び。連合副会長S氏は「連合本部でこのような活動実態を知っているのか?本部も頑張る。地域も頑張つてくれ。」と力強く励まされた。

●5月22日(金)に某全国産別の役員ら6名が、連合地域活動の視察に長岡を訪れた。学校給食調理残さ再利用活動も見たいというので柿町の地域循環ネットワークの施設へ。 ●バーベキューで昼食を取りながら、活動の説明や意見交換が行われた。その会話の中で連合本部会費「50円」の10円値上げ問題が話題となった。 ●私は気軽に「5円だ10円だ二段階だ」といって、地域に顔の見える連合運動をつくらうという掛け声とは言動不一致だ。」と発言。 ●すると、突然「申し訳ない。私は連合本部副会長。地域の連合の仲間がこんなに活動している事は今日の視察で初めて知った。連合会費問題でぐずぐずしてはいられない。東京に帰ったら会費値上げ問題について積極的に発言するよ」と明言。

見なくっちゃ 聞かなくっちゃ 言わなくっちゃ

サラリーマン川柳 (横長のテレビに合わせて) (寝増え) (充電のつもりが放電午前様)



第15回連合新潟ユースラリー

ものづくりや学習会通じ交流

国立妙高青少年自然の家で36名が参加

5月23・24日連合新潟青年委員会主催『第15回連合新潟ユースラリー』が国立妙高青少年自然の家で開催された。連合中越からはS Jネット伴内委員長と山本事務局長が参加した。

ユースラリーは2日間ともあいにくの曇り空でしたが、高原の涼風吹く妙高の森林を舞台に36名の青年が仲間づくり・ものづくり・森林保全活動の学習会に勤しみました。仲間の家はインストラクターを講師に、「妙高アドベンチャーオリエンテーリング」を通してコミュニケーションのとり方次第で、結束・団結力のあるグループが作れる事、そして思いを1つにすることでどんな困難にも立ち向かえる事を体験しました。



ちご山里ファンクラブの方を講師に、新潟県の森づくりと林業・環境の関わり、現状に至るまでの苦労とそこから得られた知恵に驚きの連続でした。ものづくりは時間の都合でできませんでしたが、皆それぞれ得た新たな経験を職場で生かして欲しいと思う。(文責・S Jネット 山本事務局長)

長岡市 市民協働条例 検討委員会スタート

市民活動の促進と、行政・市民活動・企業の「協働」を進めるための条例制定に向けて検討委員会が5月29日(金)に第1回委員会を開催。2年程度の検討期間を経て、協働の「場」の「機会」の創出と行政の在り方について条例制定まで練り上げる事となった。委員の大半がNPO団体で構成されるもので活発な討議が期待される。

連合新潟 第7回執行委員会 委員会までの活動を確認

連合新潟は5月27日(水)第7回執行委員会を開催。09春季生活闘争のまとめや平和運動、衆院選対策、地方委員会対策などが協議確認された。

また、県労協の一般社団法人化とそれに関わり、専務理事として連合中越金子事務局長が兼務していくことが確認された。連合新潟と中越地協の調整で11月の地協定期総会までの兼務期間の事務局フォロー体制についても確認された。6月開催の第4回地方委員会の内容・任務分担も決定された。

連合小千谷支部だより



50MN プレス MP-75 4連 5000kN シリンダ 10台使用



高層部工事 本建設機決定の状況



ドライドックで1次積組の状況

単組紹介 理研精機労働組合

小千谷支部に属する、理研精機労働組合を紹介いたします。産別ではJAM新潟に所属しております。私たちの会社は戦前より旧理研の小千谷工場として、工作機械などの製造を行ってまいりました。現在は、超高压の油圧機器、沈埋函敷設用油圧装置、各精密コレットチャックの設計・製造を行っています。私たちが作る製品は、建設業関係、プレス関係、造船関係、工作機械関係等と幅広くのユーザー様よりご支持をいただいております。組合員の世代交代により技術、知識の伝承を組合、会社共々真剣に取り組んでおります。

私たちの組合は1948年発足し、執行委員9名で活動しています。現在の組合員人数は男性104名、女性9名の合計113名です。支部での活動を通じ働きやすい職場環境を目指して取り組んでいきますので、今後ともご指導よろしくお願い致します。

連合北魚沼支部だより

○メーデー反省会を開催 第81回も5月1日開催確認

5月8日魚沼市の須藤魚屋にて第80回メーデーの反省会開催しました。

団体代表者や実行委員等14名にて本メーデーの取り組みの総括を行い、さらには次回に向けての取り組み等の確認も行いました。

森山実行委員長挨拶の後、細かな内容について総括を行う中、やはり参加人数の減少(一部団体では増加している)に歯止めがかからず、開催方法について課題が残ったことが一番大きな問題としてあげられました。

細かな課題については、来年の実行委員会にゆだねることとなりましたが、5月1日開催については、北魚として変えない方向を決定してきました。

また、本地区において花の種1等当選の結果を各団体に周知したところです(該当者が未だ出ておりません。この場を借りて再再度連絡をお願いします)。

約一時間の会議の後、懇親会を開催し、本年のメーデーに一区切りをつけました。

○サン工業労組解散

サン工業労組は、1975年に全国金属労働組合新潟地方本部サン工業支部として結成された以降、今日までJAM新潟サン工業支部として活動してきました。この度、産業構造の変化に伴い、5月20日をもって工場閉鎖提案を受入、同時に組織解散を確認いたしました。

北魚沼地区の民間労働運動の先駆けとして頑張っていたことに本当に敬意を表します。長い間、本当にご苦労様でした。